

# 令和 7 年度多面的機能支払交付金

## 中国四国農政局長表彰

### 最優秀賞組織の概要

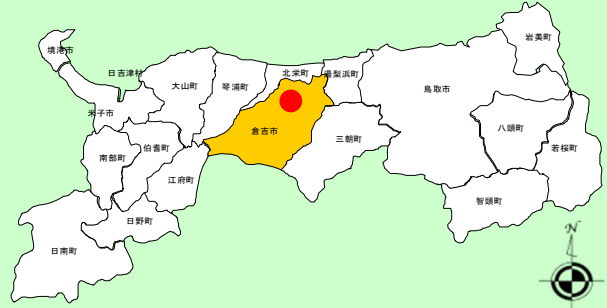
- |    |  |          |         |
|----|--|----------|---------|
| 1. | <small>し お う じ ち く し げ ん ほ ぜ ん か い</small><br>四王寺地区資源保全会 | (鳥取県倉吉市) | ・ ・ ・ 1 |
| 2. | <small>さと</small><br>ツルの郷を守る会                            | (山口県周南市) | ・ ・ ・ 2 |

令和7年度 多面的機能発揮促進事業  
中国四国農政局長表彰 最優秀賞組織（鳥取県）

【多面的機能支払】

しおうじちくしげんほぜんかい くらよしし  
「四王寺地区資源保全会」（倉吉市）

- （１）認定農用地面積：71.3ha  
（田：56.5ha、畑：14.8ha）  
（２）組織構成：  
5集落（農家137戸、非農家23戸）  
開水路：28.8km、農道：12.8km  
ため池：8箇所



【組織の概要】

本組織は、倉吉市北部にある伯耆国庁跡近くの四王寺山を取り囲む5集落から構成され、天神川支流の国府川下流左岸域に位置する平地農業地域で、県営圃場整備事業が実施された農地では、水稻、大豆、倉吉市特産のスイカ、メロンなどの栽培が盛んです。

水利施設の老朽化、高齢化・後継者不足の進行により、四王寺土地改良区や地域の担い手である農事組合法人「四王寺営農組合」と連携し、大谷地区を中心に5集落及び非農家等を含む構成員が一体となり、平成27年度から活動を開始しました。

土地改良区が事務局を担い、スマート農業、カーボンクレジットなどの先進的な取組にも挑戦し、集落・関係団体と「絆」を深めながら活動を推進しています。

【主な取組内容】

- （農）営農組合と連携して、地域の子供たちと「アイガモ農法を取り入れた環境にやさしい農業体験学習」、「田んぼの生き物調査」、「親子で田植えイベント」、「みのりの秋感謝祭」などの食農体験学習を実施して、地域農業の理解醸成を図り、地域住民・消費者との交流を深めるなど、地域コミュニティの強化により地域力を高めています。
- スマート農業の取組として、ドローンによる農薬散布やGNSS制御による自動調整機能のある田植機を導入して農作業の軽労化・効率化を図るとともに、環境負荷低減活動として、減プラスチック肥料の活用、令和6年度からは長期中干しの実施によるカーボンクレジットに取り組み、生物多様性に配慮し地域農業の持続性を高めています。
- 令和3年の天神川流域の大雨被害を教訓に、令和6年度に排水調節機能のある堰板を自作し、令和7年度から水田の落水口に堰板を設置して、隣接下流域の浸水リスクを低減する「田んぼダム」に取り組むことで流域治水を推進しています。



地域の子供たちとの食農体験学習  
（郷土愛の醸成・農村コミュニティの強化）



スマート農業の導入  
（地域農業の持続性向上）



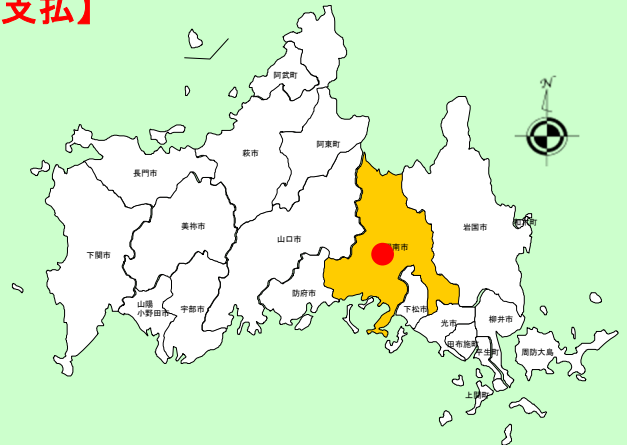
田んぼダムの取組（流域治水）

# 令和7年度 多面的機能発揮促進事業 中国四国農政局長表彰 最優秀賞組織（山口県）

## 【多面的機能支払】

### 「ツルの郷を守る会」（周南市）

- （１）認定農用地面積：143.7ha  
（田：141.2ha、畑：2.5ha）
- （２）組織構成：  
13集落（農家115人、非農家74人）  
開水路：64km、パイプライン：9.4km  
農道：21km、ため池：4箇所



### 【組織の概要】

本組織は、周南市の東部に位置し、本州で唯一のナベヅルの越冬地として、特別天然記念物「八代のツルおよびその渡来地」に指定された中間農業地域で、水稻・麦・大豆の栽培が盛んです。栽培した特別栽培米は、「つるの里米」としてブランド化されています。

平成19年度から活動を開始して、近年、高齢化や参加者の減少に伴う担い手への負担増加が問題となっていたため、老若男女、移住者、地域外住民等の様々な立場の人材が集落を越えて参加して地域全体でカバーする「草刈り支援隊」を結成しています。

### 【主な取組内容】

- 共同活動という農業の基本を重視し、女性役員を登用して、農業者・非農業者が一体となった草刈りや泥上げなどの基礎的保全活動を行っています。令和6年度に高齢者では作業困難な法面等の草刈りを実施する「草刈り支援隊」を設置して毎月活動を行い、「草刈り支援隊ニュース」を発行して、ライン等で活動内容を共有しています。
- ナベヅルとの共生を目指して、事務局の農事組合法人「ファームつるの里」と連携し、ナベヅルが飛来する時期に一切工事を行わないことや、刈草の堆肥化、有機農業、化学肥料・化学合成農薬の5割低減、餌場の創出のため冬期湛水に取組むなど、ナベヅルの生態に配慮した次世代に繋がる資源循環・環境保全型の活動を行っています。
- 地域の小学校と連携し、「水辺の教室」を毎年開催しています。地域外の子供も参加して交流の場になっており、生き物調査や水質モニタリングにより、取組の効果（生物多様性保全）が発揮されていることを確認しています。



草刈り支援隊と飛来したナベヅル



小学校と連携した水辺の教室



草刈り支援隊ニュース